

大学

企画課管理用 管 — C — 1

| | |
|------|----------|
| 推進主体 | 学長室経営企画課 |
| 責任者 | 学長室部長 |

| 分類 | 実施計画 | 開始年度 | 完了年度 | 将来的な継続 |
|-------|-----------------------------|---------|---------|--------|
| 管 — C | ①教学マネジメントの確立によるカリキュラムの改善・向上 | 令和 4 年度 | 令和 9 年度 | あり(予定) |

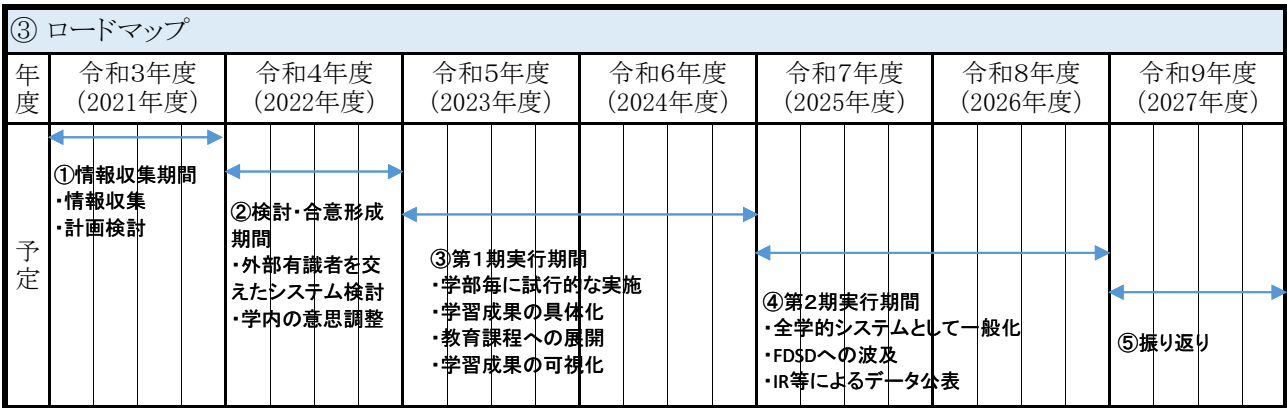
① 目的・内容

本計画の目的は、教学マネジメントの確立によるカリキュラムの改善・向上を実現することにある。教学マネジメントの定義は、①大学及び各学部・研究科のミッションに基づき、本学の学生が「何を学び、身に付けているのか(身に付けることができるのか)」を卒業認定・学位授与の方針において学習成果として更に明確に示すこと、②学生が学習成果を実感できる学修者本位の教育の実現につながる教育課程を編成する等の教育改善(特に正課のカリキュラム改善・向上)に取り組むこと、③その成果を適切な尺度によって点検・評価すること、④これらの情報の公開を通じて社会に対する説明責任を果たすことを内包した一連のシステムとする。

本計画では、中央教育審議会の示す教学マネジメント指針に基づき、教学マネジメントのシステムを確立するため、①学習成果の更なる具体化、②教育課程への展開、③学習成果の可視化、④FDSDへの波及、⑤IR等によるデータ公表等の段階を踏む。これらの各段階を外部有識者の協力を得ながら進める。更に、教学マネジメントは、質保証の概念と深く関連するため内部質保証システムとの関連に留意して検討する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

①アセスメント・ポリシーに示す指標によって、②卒業認定・学位授与の方針に示す学習成果を測定し、③カリキュラムの改善が行われる恒常的なマネジメントシステムを構築することを目標とする。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

| 指標の名称 | | 指標の定義(計算式/説明) | | | | | |
|-------|----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1 | 直近 | 令和4年度 (2022年度) | 令和5年度 (2023年度) | 令和6年度 (2024年度) | 令和7年度 (2025年度) | 令和8年度 (2026年度) | 令和9年度 (2027年度) |
| 目標 | | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | |
| 2 | 直近 | 令和4年度 (2022年度) | 令和5年度 (2023年度) | 令和6年度 (2024年度) | 令和7年度 (2025年度) | 令和8年度 (2026年度) | 令和9年度 (2027年度) |
| 目標 | | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | |

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

| ⑤ 実施計画／実施報告 | | |
|-------------------|--|---|
| 年度 | 実施計画 | 実施報告／今後の課題 |
| (2022年度) 令和4年度 | 令和4年度中は以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・会議体等の組織の在り方の検討 ・外部有識者を交えた実施計画の検討 ・計画の実施に向けた教研部門との合意形成 ・令和4年度から令和9年度の単年度目標及び測定指標の設定 | 令和4年度は、「令和4年度から令和9年度の単年度目標及び測定指標の設定」に取り組んだ。特に測定指標の設定に関しては、IRオフィスとの協力のもと学習成果の把握・可視化のための尺度の設計、見直しに取り組んだ。なお、「会議体等の組織の在り方の検討」「計画の実施に向けた教研部門との合意形成」に関しては、令和4年度に受審している大学評価結果(令和5年2月頃受領予定)を踏まえ着手する予定である。 ★進捗段階:「計画立案」 |
| (2023年度) 令和5年度 | 令和5年度中は以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・在学生調査(卒業生調査)を通じた学習成果の把握・可視化 ・会議体等の組織の在り方の検討 ・計画の実施に向けた教研部門との合意形成 ・学習成果の把握・可視化の指標の検討 | 令和5年度は、学習成果の把握・可視化の指標の検討を行い、在学生調査及び卒業生調査のなかで学生の学習実感を聞く設問を追加する等の見直しを行った。また、各学位プログラムの学修成果の指標を検討するうえで、他大学(成蹊大学等)へのヒアリング調査を実施した。上記の在学生調査の設問の見直し及び各学位プログラムの学修成果の指標の設定は、令和5年度中に会議体に上程する予定である。 ★進捗段階:「計画立案」 |
| (2024年度) 令和6年度 | 令和6年度中は、令和5年度から引き続き、以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ①在学生調査(卒業生調査)を通じた学習成果の把握・可視化の実施 ②各学位プログラムの学習成果の把握・可視化の指標の検討 なお、②に関しては、令和6～令和7年度にかけて継続する予定である。 | ①②共に実施を機関決定した。このうち、①は令和6年度中に実施を予定している。また、②については、学習成果の把握・可視化の指標としてルーブリック評価を導入することとし、特に大学院を対象としたルーブリック評価に関するFD研修を実施した。 ★進捗段階:「実施展開」 |
| (2025年度) 令和7年度 | 令和7年度中は以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から引き続き②各学位プログラムの学習成果の把握・可視化の指標の検討 ・アセスメントポリシーの見直し | 当初、令和5年度からの継続課題として掲げた「各学位プログラムの学習成果の把握・可視化の指標の検討」及び「アセスメントポリシーの見直し」については、その後の大学基準の見直し動向を踏まえ、現在、当該基準との整合性や全学的方針との関係を考慮しつつ内容を再検討しているところである。これらの取組は、令和8年度においても継続課題として位置付け、検討および具体化を引き続き進める予定である。 ★進捗段階:「実施展開」 |
| (2026年度) 令和8年度 | 令和7年度から継続して以下の事項に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・各学位プログラムの学習成果の把握・可視化の指標の検討 ・アセスメントポリシーの見直し | |